

# 富士見町に 休戸を つくる

発行人/エンジェル千代子

発行日/H 1 8 . 5 . 1 4

Tel/FAX:0266 - 64 - 2251

HP: [www.angelchiyoko.net](http://www.angelchiyoko.net)

Email: chiyoko@angelchiyoko.net

議員になって3年が過ぎ、正直「ようやくあと一年」と言った感じです。今回は、3月の臨時議会で提示された「パノラマの支援策」と、現在富士見町の休戸に建設予定の灰溶融炉の建設についてお知らせします。

H17年2月の数字です。H17年度分は返済しました。

## パノラマスキー場に対する今回の支援策って？

パノラマスキー場に関係した金融機関からの借金は、公社（21.5億円）と町（27億円）と合わせると48億5千万円になります。その借金をH17年から31年までの15年間ですべて返済しようと言うものです。そのために、町は公社に15年間で26億円を貸して、その後の15年間で公社からは利子を含めて返済されるという計画です。

あまりにも額が大きくピンとこないのですが、ちなみに48億5千万を5629世帯数で割ると1世帯あたり86万1600円。17年度分の2億3千万円だと1世帯あたり約4万860円になります。

「なんで町だけが責任を背負わなければいけないんだ。同じ出資者である銀行の責任を問うべきだ」とたくさんの方からご意見をいただきます。でも、町が交渉の努力してこなかった訳ではないと思います。精一杯の努力をして今回の支援策だったと、町民も覚悟を決める必要があると思います。これ以上の金融機関との交渉を期待するなら「できる」と言う力のある人が動くしかないのじゃないでしょうか。農協や銀行にも、組合員のみなさんの声は影響力があるのじゃないでしょうか？

毎年15億円ほどの売り上げのあった時期でさえ黒字になったのはH7年度のみ。「以前の経営者の責任」についても同じことだと思います。町の理事者には「法的責任は問えないので道義的責任も問えない」だったら、おかしいと思っている人が声を上げて行くしか方法はないと思います。そう言った事を具体的にどう動けばいいのかは、皆さんで知恵を出し合って話し合っただけで見つけていけないのではないでしょうか。

パノラマについての支援策がこれですべて決まった訳ではありません。議会にも毎年その年の予算として上がってきます。その都度、最良と思われる判断をこれからもしていくことなく、富士見町の助役がパノラマの事にあまりにも多くの時間を割いて来たのは、異常な事だと思います。

私は、とにかくできるだけ早く、町から公社を切り離すべきでだと思えます。そのために町が借金を背負う必要があるのなら金利等考えるとむしろ早急に解決すべきではないでしょうか。そして町民が不公平感を持つことなく、健全に税金が使われるための議論を尽くしたいと思えます。

## 溶融炉建設からごみ問題を考える

現在、茅野・原・富士見町の「諏訪南行政事務組合」の広域の事業として、焼却灰をもう一度高い温度で溶かして無害のガラス状の「スラグ」にする計画が進められています。このために建設予定地の、休戸にあった旧焼却施設を解体。H18年8月から工事着工、H20年には完成を目指しています。私自身も行政から説明を受けた時は、循環型の社会に即した、これからのあるべき施設だと思っていました。

でも、「本当に大丈夫なんですか？小さな子供がいてとても心配です」と言うお母さんから資料を頂き、自分でも調べていくうちに次から次へと疑問がわいてきました。

### 素朴な疑問

説明では・・・

でも・・・

「今回選定した機種は、今まで事故の起こっていない物から選びました」



今まで事故を起こした施設も建てた時には「絶対安全です」と言うことで建設されていたはずです。

「JIS化され、スラグは建設用資材として売却します」



これだけ公共事業が少なく、他に安い材料があるのに、将来的にも本当に経済的な循環に載るのでしょうか。

「耐久年数は15年ですが、20年くらいは使いたい」



こう言った施設に頼っている限り、巨額な費用をかけてごみを処理しなくてはなりません。

富士見町では「その他の紙」の回収もしていますが、皆さんはご存知ですか？一年前から「広報が不十分」と役場に言っていますが改善されません。

諏訪南の事務組合に行って説明を受けて始めて知ったのですが、H15・16年平均の可燃ごみの構成での資料では、乾燥重量比にすると紙類が44.1%、プラスチック類が24.4%となっています。事業系のゴミが含まれているとしても紙の多さには驚きました。茅野市の焼却施設の現状ではビニールゴミが多いことが一番の問題で、炉の温度が上がりすぎてしまい、水をかけて温度を下げているとの事でした。「各市町村にはお願いしているし、茅野市では美サイクル茅野で研究している」との事でしたが、住民がそう言った事実を知らないことも問題だと思えます。

## 地元説明会はこれでいいのでしょうか

4月24日から、花場・休戸地区、先能地区、大無川地区と地元説明会が開催されました。折角の機会、なるべく多くの方にご参加いただくべきです。でも「地元の方とじっくり話し合いたいの、地元以外の方はご遠慮いただきたい」と言う理由で、私が「議員として住民の皆さんからどんな意見があるのかお聞きしたい」と言うことも断られました。

「対象地区」も行政から見た判断で、住民の立場で見れば『うちも対象地区だ』と言う方もいらっしゃる。「そんなこと言ったら、北杜市の人まで『うちは対象地区だ』って事になる」と、組合では言いますが、不安を抱えていらっしゃる人がいる以上、きちんと説明する責任があると思います。

行政や業者からは否定的な情報が出てきにくいものです。でも私たちは判断する材料として、推進する意見と慎重な意見とを両方聞いて、その上で本当にその施設が必要なのか、他の選択肢はないのかを議論する必要があるのではないのでしょうか。

よく「エンジェルは何でも反対する」と言われるのですが、行政がきちんと説明して、多くの住民が賛成と言うことに異論を唱えるつもりはありません。ただ、その時にいつも「十分な説明」や「住民に理解を得た」というところで行政と認識が違うことを感じます。

また、その説明会で「はい、私はこのことに反対です」と言わない限り、疑問の声が多くても執行者側は「大方の理解は得た」と解釈します。行政は説明責任を十分に果たしているのか、いつも疑問に思います。住民に説明するときは、ほとんど「この方法でやっていく。ご理解いただきたい」です。そのどこに住民の意思が反映されるのでしょうか？

でも、その結果は借金を背負ったり環境に影響がでたり、直接住民に負担のかかるものです。

## 4人の子供の母親として・・・

人は自分の身に直接被害が及ばないと真剣に考えません。私も自分が幼いころからひどい鼻炎で苦しみ、その体質を子供が受け継いで苦しんだので環境のことを考えるようになりました。

たとえば汚染物質が大気中に本当に微量であったとしても、食物連鎖の頂点にいる人間の体には蓄積されていきます。そして望まなくても母親が宿した胎児に影響を与えてしまいます。母親は出産と言う機会を利用して、自分の体内からできるだけ異物を排出しようとします。こんな悲しい仕組みで最愛の子供たちに私たちは不の遺産を受け継がせてしまいます。天使のような子供たちの寝顔を見ながら「こんな時代に生んでしまった事。私たちが今抱いているよりずっと大きな不安を抱きながらこの子供達は自分の子どもの寝顔を見ることになるのだろう」と、思うと寝れない夜が続きました。でも、泣いていても仕方がない。今の時代を精一杯生きるしかないのだと思ひ直しました。私は、もうこれ以上この地球を汚したり壊したりするのはいやです！

人が生きること自体がこの地球に付加をかけるとしても、知恵を授かった人間として、少しでも汚さない努力はできるはずです。



## 大きな力の中で

国が進めていることが常に正しいことではありません。薬害や公害問題など、さまざまな問題は、国がその時は「安心」として基準を定め認めたものです。でも、実際は時間がたつてはじめて結果が現れることが多いのです。「その時、その時代の最高の技術と知識で」と言っても、その技術や知識は進歩し、最新の技術も退化して行きます。そして、何年か何十年もして、その結果が「被害」と言う形で現れるのです。それに加え、今回の溶融施設のような技術は造船や鉄鋼の技術であり、国が推進する影には業界との政治的な背景もあると言われています。

私たちは今、ごみに関する政策の大きな岐路に立っていると思います。一つはこれからもずっと巨額なコストをかけて施設でゴミを燃やしていく方法。もう一つはこれを機会に、脱焼却、脱埋立ての方向にゴミ政策を転換する方向。ゴミを徹底的に減らす政策を住民と共に考え実行することによって、財政的な負担は確実に軽減されます。

施設を作ることで一企業が潤いますが、リサイクルや資源化を進めることによって地域に新たな産業や雇用が生まれる可能性もあります。「だって毎日出るごみはどうするんだ？」と言われますが、根本的な問題はごみを減らすことです。リサイクル・資源化率とも長野県内120ある自治体の中でも茅野・原・富士見を合わせた数字で、下から9～10番目です。

ごみ0ウエスト宣言をした上勝町のHPの『ゴミ宣言から1年』と言うところでは、次のような記述もありました。

『…(町の)皆さんのごみ分別の日頃の努力は、町内商店の顧客を増やし、農産物の信頼性や付加価値を高め、最近全国各地で取り組みが始まっているエコツーリズム等、観光産業の大きな流れの中で地域の経済向上に結びつくコマーシャル(広告)的な意味を持ち始めています。』

5月21日(日)午後7:00からは、コミプラで富士見町全体の説明会が開催されます。ぜひ、多くの方に関心を持って参加していただきたいと思います。

## 私の一番言いたい事

どんな事業に関してもきちんと情報提供をし、推進派と慎重派の両方の考えを聞いて議論を重ね判断するのは住民です。計画の過程で住民の意見を聞いて反映させる仕組みが必要です。住民の合意形成がなされないまま進められれば、住民の心はどんどん行政から離れ「どうせ言っても仕方ない」と、あきらめてしまいます。

合併の時がそうだったように、人は自分たちの出した結論に対する結果については、納得して責任が持てるのじゃないでしょうか。

私は、そう言うことが「協働のまちづくり」だと思います。

\* ホームページもぜひご覧ください。写真と一緒に色々な話題や問題を取り上げています。お気軽にご意見などをお書き込み下さい。(Google や Yahoo で「エンジェル千代子」で検索すると出てきます)